

2022.4
Vol.114

にいだがわつうしん 新田川通信

今 新田川では
門前橋(もんぜんばし)



前日の雪がしっかりと残る3月23日午前6時。
すべてが雪と氷に包まれた、北新田にある門前橋です。
橋の全長は110.4mです。

水面は穏やかで、魚たちは深みで寒さに耐えているのか姿は見えません。時折、早起きの鳥が木の枝や枯草を揺らしています。キリリと引き締まった空気にシャッターを押す手はかじかんでいます。

少し下流南岸の桜は、せっかく膨らんできたつぼみも霧氷に包まれ震えているようです。

氷点下6度。
橋の欄干の雪も
このようにな
るんですね。

「暑さ寒さも彼岸まで」
雪が解けたらもう
暖かくなるんでしょうね。

大工さん 今日はどんなお仕事? ...の続き



建築中の「憧れの平屋住宅」の様子です。
ホワイトの外壁が貼られ、グリーンの屋根は周囲の自然に溶け込む色ですね。
間もなく足場が取り外され、完成まであと少しです！

▶窓は「断熱樹脂サッシ」になっています。
サッシ部分がアルミではなく樹脂でできているため、断熱性と気密性に優れており“冬は暖かく夏は涼しい”省エネなお部屋になります。
また、冷気が伝わりにくいので結露もできにくくメリットがあります。



壁付けリモコン

◀浴室には「浴室暖房乾燥」がついています。
換気と暖房に加え、
浴室という狭い空間で効率よく洗濯物を乾かせます。
衣類が外気に触れないで花粉対策バッチリ！
ついでに浴室も乾燥されてカビ対策もGood！

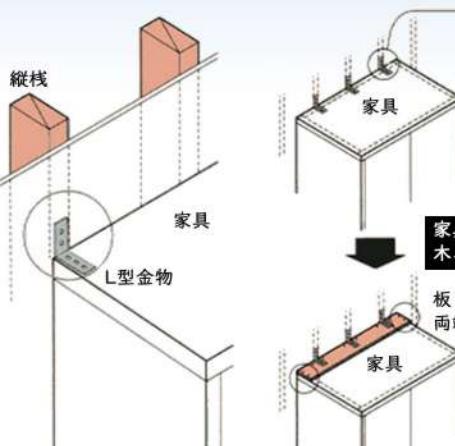
《社員紹介コーナー》



機械が得意で、主に建築の設計や見積りを担当している一級建築士の櫻井さんの仕事風景。
パソコンと車が趣味、甘いものが好物ですが、
甘いものはお医者さんに止められているようです…。
撮影のため、書類の山を少しどかしました(;^ω^)

うわっ、地震だ！！

その時…
被害を最小限に抑えるために事前に家庭の中でできること



- ①家具の転倒防止のため、家具は壁に固定する。
- ②寝室や子ども部屋には、できるだけ家具を置かない。
やむをえず置く場合は、なるべく背の低い家具がよい。
- ③棚の上には危険なものは置かない。
- ④転倒時に出入口を塞がないよう、家具の向きや配置を工夫する。
- ⑤身近なところに懐中電灯やスリッパ、ハイズルを備えておく。

耐震ジェルもあると
更に安心ですね。



L型金具で壁の棟に直接家具を固定する場合は、
壁の棟と同様に家具の上部の棟を探す。
コンコンと固い音がすれば大丈夫。
ただし、L型金具の木ネジがきちんと入らない
幅の棟なら、必要な幅の板を家具に打ち付けて、
そこにL型金具をとめる必要がある。

《大工さんのアイテム》

バール & バールのようなもの



↑テコの原理で、釘を抜くのに活躍します

釘を抜いたり、何かをこじ開けたり、壁を破壊したり、

テコ棒にしたりと、実用的な用途は色々あります。

大きいものから小さいものがあり、形も様々。

ですが、西洋から入ってきたものが正真正銘の「バール」で、日本のものは「カジヤ（鍛冶屋）」「三徳釘締め（ポンチ）」など、形はバールと似ていても、正確には別の物。

なので事件のニュース等では「バールのようなもの」という曖昧な表現になるのだとか。

もちろん、絶対にコレで人を殴ってはいけません(>_<)



他にも
「平バール（尾割れ）」「カナテコ」「スクレーパーバール」など、様々あります。

高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

南相馬市では、高齢者が自宅で転倒等により要介護・要支援状態にならないよう
軽易な住宅改修を行う高齢者に改修資金が助成されます。

■対象者

南相馬市内に住所を有する60歳以上の高齢者（※他に要件あり）
(介護認定を受けられた方も同様に助成金を受けられます。)

■対象となる工事の内容

- 手すりの取付け
- 段差の解消
- 滑り防止及び移動の円滑化のための床や通路面の材料の変更
- 引き戸等への扉の取替え
- 洋式便器等への便器の取替え
- (+上記の工事に付帯して必要な工事)

■助成額

住宅改修工事に要した総費用の9割の額
(※限度額18万円、原則1回限り)

※この助成金は、改修前の申請が必要です。

※要件とは、生計中心者の所得が児童手当所得制限の限度額以下の方。



施工事例(屋外手摺)

～Before～



～After～

つまずく前の第一歩ですね！

詳しくは、佐藤建業 (☎0244-22-7619)

までお問い合わせください。

田植え地蔵

埼玉県

4月といえば農作業の最盛期
そこで田植えの昔話をどうぞ



むかし、あるところに、よく働く若者が住んでいました。

若者は田へ出かける時、いつも村はずれのお地蔵さまに手を合わせておがんでいました。

「わたしや村人たちが元気でいられるのも、全てお地蔵さまのおかげです。ありがとうございます。」

ある日、若者は病気になりました。

「困ったな。早く田植えをしないといけないのに…」

若者は心の中で、お地蔵さまに頼みました。

(お地蔵さま、早く病気を治してください。)

その晩のこと、村人が若者の田のそばを通ると、誰かが田で仕事をしていました。

村人が「こんばんは。」と言うと、

その人は「はい、こんばんは。」と答えました。

仕事がとても早く、一日で若者の田の田植えを終わらせたのです。

それを見て、村人たちの間で「不思議な人だ。どこの誰だろう？」

とうわさになり、それが殿さまの耳に入りました。

殿さまは、その人をお城に呼びました。

「お前は、病気の若者の田植えをしてやったそうだな。

困っている者を助けるのは良いことだ。ほうびに、酒をごちそうしよう。」

殿さまがそう言って、お酒を勧めました。

「ありがとうございます。」

その人は、おいしそうにお酒を飲みました。

「さあ、もっと飲め。」

殿さまが勧めると「もう飲めません。これで帰ります。」

と帰ろうとするので呼び止め、さかずきを差し出し「このさかずきをお前にやろう。酒を飲みたくなったら遠慮なくここへまいれ。」

この話を聞いた若者は、首をひねって考えました。

「田植えをしてくれた人って、誰だろう？」

いくら考えても、思い当たる人がいません。

これも、お地蔵さまのおかげに違いない。

若者は起き上がりと、お地蔵さまのところへ行きました。

「お地蔵さま、お久しぶりです。…ああっ！」

若者は、お地蔵さまを見てびっくりです。

なんとお地蔵さまの頭の上に、さかずきが乗っていて、

足には田んぼの泥がついていたのです。

「お地蔵さま。田植えをしてくださったのは

あなたでしたか。このさかずきは殿さまからの

さかずきで、足の泥は田の土でございましょう。

おかげさまで、今年もお米がとれます。

ありがとうございました。」

若者はお地蔵さまの足をきれいにすると、お礼にお供えをしました。

おしまい

